

## 文化財保存新潟県協議会・第16回大会

**「災害と考古学 ～遺跡から災害をどう学ぶか、災害から遺跡をどう守るか～」**

今年度の文化財保存新潟県協議会総・大会を以下のように開催いたします。

総会は文化財保存新潟県協議会会員（新潟県内在住の文化財保存全国協議会会員）が年に一度集まり、本会の活動を振り返り、今後の指針を協議する重要な会です。また、大会は広く市民に参加を呼びかけ、遺跡と歴史と一緒に学ぼうという機会です。

1964（昭和39）年6月16日に発生した「新潟地震」から50年がたちます。県内ではその後も、多くの地震、そして水害などの自然災害を経験してきました。記憶に新しい東日本大震災（2011年3月11日）ではその被害の様子が映像で繰り返し流され、人間の力の及ばない自然災害の恐ろしさを思い知らされました。と同時に、過去の自然災害の痕跡が文献や地中に残されており、そこから多くを学ぶことが、広く市民に注目されるようになりました。

そこで今回の大会では、まずは火山噴火や地震災害を被った遺跡の発掘調査成果を学びます。お隣群馬県では、1982年からはじまった渋川市黒井峯遺跡の発掘調査で、6世紀中頃に起こった榛名山の火山爆発で噴出した大量の軽石によってすっぽり埋もれたムラが発見され、この遺跡は「日本のポンペイ」と呼ばれています。また、一昨年（2013）年の11月には、同市金井東裏遺跡で、やはり6世紀初頭の榛名山二ッ岳の火砕流堆積物の中から「甲を着た古墳人」が見つかり、大きく報じられました。こうした豊富な自然災害遺跡の調査成果を群馬県埋蔵文化財調査事業団の原雅信さんからご報告いただきます。

また、この度の東日本大震災では災害復興のために急がれる遺跡の発掘調査を支援するため、新潟県からも調査支援の職員が派遣されました。そうした経験から見える災害後の遺跡調査の現状と課題について、新潟県埋蔵文化財調査事業団の高橋保雄さんからご報告いただきます。

こうした報告から、「遺跡から災害をどう学ぶか、災害から遺跡をどう守るか」をみなさんと考えたいと思います。大会は事前申し込み不要です。みなさんふるってご参加下さい。

**と き：2014年7月19日（土）**

**と ころ：新潟市歴史博物館（みなとぴあ）・2階セミナー室**

**日 程：総 会 12：30～13：00**

**大 会 13：00 一般受付開始**

**13：30開会～16：30（終了予定）**

講演1「遺跡に刻まれた災害の痕跡

～群馬県の遺跡に見る火山噴火と地震災害～

原 雅信 さん（群馬県埋蔵文化財調査事業団）

講演2「東日本大震災の復旧・復興にともなう

埋蔵文化財発掘調査の支援状況と課題

～宮城県への派遣経験から～

高橋保雄 さん（新潟県埋蔵文化財調査事業団）

**懇親会 17：00～（要予約。会費4000円程度。）**

※資料代500円をいただきます。詳しくは、同封のチラシをご覧ください。

## 文新協恒例の連続学習会は「古代遺跡講座」へ

# 「古代遺跡講座」第1回目は“入門編”を開催!!

小林 隆幸

2014年4月13日（日）に第1回目の「古代遺跡講座」が、みなとぴあを会場に開催されました。「古代遺跡講座」は、文新協の人気事業として実施してきた連続学習会の「縄文講座」「弥生・古墳講座」を引き継ぐもので、先陣をきって当会木村英祐事務局長が初回の講師を務めました。木村さんは古代史が専門である一方、大学時代には遺跡の調査にも積極的に参加するなど考古学の分野にもかかわってきました。現在は新発田中央高校で教鞭をとる傍ら、東北地方の城柵など古代官衙遺跡を主に学び、さらに遺跡の保存問題に取り組んでいます。今回は次に続く入門編として、「越後古代史を読み解く視点～文献史学と古代遺跡の接点～」の題で話が進められました。



講演は、古代史の話に先立ち県内の文化財保存運動をふり返ることから始められました。配布資料集の巻末には文化財の保存運動が年表でまとめられ、それによってこれまでの経緯が一目できます。木村さんは保存運動とともにこれまでの30年間の文化財や考古学を取り巻く動きを振り返り、遺跡の調査研究が進展してきたこと、文化財をあつかう施設も整備され、市民の関心が高まり学習会等の機会も増えてきたことを評価しています。

本題の古代史についてのお話は、授業で高校生に日本史を教え、市民の視点で文化財の保存運動にかかわってきた木村さんらしく、入門編にふさわしい非常に分かりやすい内容でした。地方の組織の仕組みや人々の暮らしの様子など、私たちの暮らしに照らし合わせて身近な事柄であるにもかかわらず、おろそかにしがちな話題についても丁寧に説明してくれました。たとえば、正倉院といえば一般に奈良の正倉院を思い浮かべますが、古代の官衙などで税となる穀物などを納める倉庫が正倉で、それらがまとまった区画を正倉院と呼ぶことなど、古代史を読み解くに基礎となる情報にも触れています。これから古代史を学ぶためのエッセンスが詰まった講演であったといえます。

今回の講座には約50名の参加がありました。今回の講座に限らず、講演に参加できなかった方々から後日、資料だけでもいただけないかという問い合わせがよくあります。せめて資料から講演内容を理解しようという意思の表れかと思いますが、実際は講演を聴いていないと理解できない資料がほとんどです。ところが今回の講座の配布資料に関しては、充実し、それだけでも十分に役立つ内容でした。今回参加できなかった方々、せめて資料だけでもと思われる方々は、事務局（木村さん）にお問い合わせください。今後引き継がれる「古代遺跡講座」を考えると、目を通しておきたい資料です。

これから「古代遺跡講座」がどのように展開されていくのか楽しみです。

### ----- 【参加者の感想】 -----

- 古代史を読み解くと現在がわかるということがわかったので、今後も関心を持っていきたい。
- 学校で習ったり、日常見聞きしている事柄のそもそもやつながりが少し理解できたような気がします。越後の国府の場所がわかっていないことは新鮮でした。港の歴史を学ぶ機会があったので、滯足柵の柵がイメージできなかったのが、少し解消されました。
- なんとといったって人が集まってくれること。向上心ある人の多さにやはりおどろく。牡丹山に古墳が見付かり、「新潟市の奥深さ」にも驚嘆。おもしろ古代。
- 新潟、越後の遺跡について、時系列的に説明されて、大変理解出来ました。
- 米の品種など、古代よりあったのは面白く、話は良かったと思う。木簡資料も現在に伝える資料として大

- 変良かったと思うし、生活の様子などのメッセージの話も面白かった。
- 弥彦が越中の国だったというのが面白かったです。花見に行かなくて良かったです。
- 膨大な資料のまとめ、お疲れ様でした。これは大変参考になります。新しい視点からのお話して、興味深く勉強になりました。楽しい一時でした。
- 今回の講座から、越後の古代について、各地に歴史を物語る遺跡があることが判りましたが、残念ながら、中でも重要な遺跡が未だに復元されて市民に公開されていません。遺跡に対して親しみを与えられる施設が必要と痛感されました。
- 種子米の木簡のことが大変面白かったです。つい50年位前迄の農村の基礎が、1500年以上昔と繋がっていることを思うと、その後の高度経済成長からの変化が余りにも急激なことを思い知らされ、恐ろしくなります。木村さんのお話は分かり易くて、有り難うございました。今後、古代の遺跡について個別に詳しくお話を聞く機会があれば幸いです。
- 新潟（越後）の古代の全体像がよく解りました。なかなかこういう話は聞けないので、大変勉強になりました。
- 簡略であるが膨大な資料を順序よく整備して閲覧出来、大変わかりやすかったです。古代越後のことが、限られた時間ではありますが大変わかりやすく解説いただきました。今後もこれらに関心を寄せて研修したいと思います。
- 古文書が現在までよく残っていたものだと感心し、その解明・分析も大変であることが分かると共に、夢もある学問である。
- .....

## 今年の文化財保存全国協議会大会は古都・奈良で開催！

### 第45回奈良大会「史跡の公開・活用と史跡整備」

主催 文化財保存全国協議会・同奈良大会実行委員会

日程 2014年6月20日（金）、21日（土）、22日（日）

文全協会員の皆様にはすでに「文全協ニュース No. 200」でお知らせしているとおり、今年度の文全協大会が、古都・奈良で開催されます。概要をお知らせします。

【6月20日（金）】全国委員会・総会・常任委員会

会場：奈良県文化会館第三会議室（〒630-8213 奈良市登大路町6-2）

【6月21日（土）】遺跡見学会「古代大和の史跡めぐり」・懇親会

近年話題となった奈良県内の代表的な史跡の整備状況を見学する。

※見学会・懇親会の参加申し込みは締め切りました。

【6月22日（日）】大会 9:30~16:30 ※大会は事前申し込み不要です。

会場 奈良県文化会館小ホール（〒630-8213 奈良市登大路町6-2）

テーマ 「史跡の公開・活用と史跡整備」 資料代500円

記念講演「出土文字資料から遺跡を読み解く」渡辺晃宏氏（奈良文化財研究所史料研究室長）

報告 世界遺産平城宮跡の国営歴史公園整備と問題点（仮）

若草山へのモノレール建設問題（仮）

奈良県馬見古墳群における史跡整備の現状と課題

長野県平出遺跡の史跡整備と活用

島根県出雲市史跡田儀櫻井家のたたら製鉄遺跡と関連遺跡群

及びまちなみの保存整備と活用

福島県文化財レスキュー活動と文化財の果たす役割（仮）

詳細は『文全協ニュースNo. 200』、文全協ホームページをご参照ください。

## 甘粕健先生追悼記念講演会

# 「古墳文化・古代官衙」にぜひご参加を！

2012年8月4日に逝去された文全協元代表委員甘粕健先生（新潟大学名誉教授・元日本考古学協会会長）を偲び記念する展示・講演会は、新潟大学あさひまち展示館、奈良市奈良県教育会館で催されましたが、第3弾として文全協創立44年目の7月12日を記念して、東京の明治大学で古墳と古代官衙に関する講演会をもちます。キトラ古墳とも類似する朝鮮高句麗の古墳文化、武蔵国府や下寺尾遺跡群で保存問題となった古代地方官衙について、甘粕先生に指導を受けた最前線の研究者の講演です。文全協創立からの甘粕先生の足跡も振り返ります。

日時 2014年7月12日(土) 午後1時～5時

報告「古墳研究と甘粕健先生の足跡」 橋本博文（新潟大学教授・日本考古学）

挨拶

甘粕静枝

講演「古代朝鮮の古墳文化」 早乙女雅博（東京大学大学院教授・朝鮮考古学）

講演「古代東国の地方官衙」 佐藤 信（東京大学大学院教授・日本古代史学）

会場 明治大学駿河台キャンパス リバティタワー16階1163教室

〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-1 TEL03-3296-4545(代)

交通：JR中央線・総武線、東京メトロ丸ノ内線／御茶ノ水駅 下車徒歩3分

東京メトロ千代田線／新御茶ノ水駅 下車徒歩5分

都営地下鉄三田線・新宿線、東京メトロ半蔵門線／神保町駅 下車徒歩5分

資料代 500円 参加予約は不要、一般参加歓迎

主催 文化財保存全国協議会

〒540-0018大阪市中央区粉川町4-8藤和テイク・ブ 谷五103号（6月より事務所移転）

文化財保存全国協議会関東委員会 事務局（6月より）

〒359-1142所沢市上新井1-7-1 森野譲方

TELとFax 04-2923-8777 bunzenkyou@zf6.so-net.ne.jp

※詳細は同封のチラシをご覧ください。

## 編集後記

文新協の目玉企画のひとつ連続学習会は「古代遺跡講座」へと突入しました。縄文・弥生・古墳時代と違って多様な「文字」資料がみられる古代史は、その分、複雑でわかりにくいこともあります。しかし、様々な資料を丹念に読み解くことから豊かな歴史像が広がってきます。そうした古代史解明の醍醐味を参加者のみなさんと共有できるような講座を目指していきます。今後の展開にご期待ください。

今年度の大会は「災害と考古学」をテーマとしました。群馬の驚くべき災害遺跡の報告にご期待ください。また、実際に被災地で発掘調査にあたった方のお話もなかなか聞けません。ぜひご参加ください。

この『会報』は文全協会員でなくても、文新協行事に参加された方には、可能な限りお送りしています（ご参加なき場合は郵送を取りやめる場合があります）。名簿は本会からの連絡にのみ使用し、個人情報保護に留意し厳正に管理しています。会報送付がご迷惑な方は、事務局までご一報下さい。

**文化財保存新潟県協議会**事務局（入会についてのお問い合わせも）

電話：090-2735-5536

E-mail：bun-sin-kyou@js8.so-net.ne.jp

ホームページ：http://www014.upp.so-net.ne.jp/bunsin-k/